

あなやま

社会福祉法人 信和会

〒407-0263

山梨県韭崎市穴山町 5164

TEL 0551-25-5900

FAX 0551-25-5906

<http://www.sip-shinwakai.jp>

編集責任者 栗原 信



かぞへ歌

一つとや ひとりです早起き 身を清め
 日の出を拜んで 庭はいて 水まいて
 二つとや ふだんからだを よくきたへ
 み國にやくだつ 人となれ 民となれ
 三つとや 身支度きちんと 整へて
 ことは正しく はきはきと ていねいに
 四つとや よしあしいはずに よくかんで
 御飯をたべましょ ころよく 行儀よく
 五つとや 急いで行ましょ 左側
 道草しないで 學校に お使ひに
 六つとや 虫でも 草でも 氣をつけて
 自然の姿を 調べませう 學びませう
 七つとや 仲よくみんなでお當番
 ふく人はく人はたく人 みがく人
 八つとや 休みの時間は 元氣よく
 まり投げ なは飛び 鬼ごっこ かくれんぼ
 九つとや 心は明かるく 身は軽く
 進んで仕事の 手傳ひに 朝夕に
 十とや 東亞のまもりを になふのは
 正しい日本の 子ともたら ね

「かぞへ歌」 詩 権藤はなよ
詩碑 (穴山の杜)

2020年東京五輪開催決定に思う



蕪崎市穴山町代表地区長
障害者支援施設 穴山の里 第三者評価委員

伊藤 正大

東京に再び聖火がともる。五十六年ぶりである。

国際オリンピック委員会の総会で東京が2020年夏季オリンピック・パラリンピックの開催地に選ばれた。IOC総会で日本のあの素晴らしいプレゼンテーションと東京大会決定の瞬間をテレビに釘付けになって見た。そして興奮を覚えた。

前回の1964年の東京大会は高度経済成長の中、第二次世界大戦で敗れた日本が復興した姿を世界に示したオリンピックであった。あの時の開会式や入場行進の様子をビデオ映像で見ると、規律正しく整然とした姿こそが復興を成し遂げた日本がそこにあったと強く感じる。

1964年の東京オリンピックの年は、私が東京に出た大学一年生の時であった。毎日毎日変わる東京の街の姿に目を見張った。

「今日より明日が良くなる」を強く実感した。

私は国立競技場で陸上競技を観戦し、棒高跳び競技が夜遅くまで行われたことを覚えている。また従兄弟と駒沢競技場でサッカーの試合を観て、初めて生で観る国際試合のすばらしさに目を見張った。何といても印象に残っているのは、学友達と甲州街道でマラソンの応援をしたことだ。アベベ選手の楓爽とした走りや円谷選手の必死に走る姿に興奮したことを昨日のことのように思い出す。

2020年の東京大会は東日本大震災からの復興を成し遂げた姿を観てもらい世界中に発信することだ。そして、「おもてなし」の心で日本の素晴らしさを感じてもらおう絶好の機会である。

福島第一原発事故の汚染水問題について、安倍首相が「抜本解決に向けた対策を私が責任を持って決定し実行している。日本を訪れるアスリートの安全に責任を持つ、その責任を完全に果たす」と世界に向けて約束したことはIOC委員のみならず我々国民にとっても最大の関心事である。一部に報道された招致委員の「東京は福島から250Km離れているから安全である」かの様な発言はあってはならない。今度の東京大会は半径8Km以内に競技施設の八割を配置する「コンパクト五輪」とする計画である。観光客など都心に集中する。交通渋滞・テロや防災など安全面で東京一極集中に問題はないだろうか、一抹の不安を感じるのは私一人だろうか。

今度の五輪招致を機に経済再生を願う声は大きい。また、観光立国としての足固めをする絶好の機会でもある。

半世紀前東京五輪は私たちに多くのものを残した。当時の私たちがそうであった様に、7年後の東京五輪も若者や子供たちの半世紀後に素晴らしいものを残していかなければならないと思う。

私は東京での二回のオリンピックを観る事が出来そうだ。聖火が灯るのは2020年7月24日だ。その日に向けて日本中が明るく着実な一步一步を進めていくことを願う。



穴山の里だより

障害者支援施設 穴山の里
〒407-0263 韮崎市穴山町 5164
Tel0551-25-5900
E-mail : sato@sip-shinwakai.jp



全国知的障害者福祉関係職員研究大会に参加して

生活支援員 小澤昭秀



9月4日から6日まで新潟市朱鷺メッセにて第51回全国知的障害福祉関係職員研究大会に参加させて頂きました。

今回のテーマは「真の共生社会の実現と知的障害福祉に向けて」でした。全体会、シンポジウムのあと、私は日中活動支援部会に参加し、各施設の実践活動報告では利用者のニーズに合わせた支援の取り組みを聴講しました。

日中活動は余暇、人間関係、体験、学び、健康維持、生活リズムの構築などの場で、豊かな社会地域生活を支える場として重要なものと改めて気づかれました。

利用者のニーズも様々で、重度の方においてはニーズを導き出す事が難しい面もありますが、それを如何に汲み取っていき、利用者を中心に「どんな暮らし」で「何が必要か」を考え、利用者の生き方（人生）に寄り添った支援が大切であると感じました。難しい課題ではありますが少しでも近づけて行けたらよいと思っています。

また分科会では異業種の方の話を聴講しましたが、企業も利用者（ユーザー、お客様）を大切に、お客様の生の声（ニーズ）を直接聞いて商品開発している事は私たちが携わっている福祉の仕事にどこか似ています。

利用者を単に区別していくのではなく、違いを認めて利用者の立場に立って理解をし、共感をし向き合う事から真の共生社会に繋がるのではないのでしょうか。

今回の研修を通じて、利用者は何を望んでいるのか、私たちは何をすべきなのか、何をしてあげられるのかをいま以上に考え今後の支援活動につなげて行かなければならないことを実感し、実行していきたいと思えます。



韮崎市在宅障がい者交流運動会 奮闘記

生活支援員 大柴 美紀

9月19日、グリーンフィールド穂坂で開催された韮崎市在宅障がい者交流運動会に利用者10名と職員3名で参加してきました。

当日は、心地良い秋風が時折吹く晴天に恵まれた中、障がい者の社会参加のきっかけづくりとして、スポーツレクリエーションを取り上げ、心身の健康づくりと交流を目的とし、他施設からも大勢の方の参加があり盛大に行われました。

競技は、赤組・白組に分かれ玉入れから始まり、終了の笛が鳴ってから玉を入れ続ける方もいるという楽しい笑いの中からの開始でした。輪投げ・フライングディスクでは少しでも高い点数を取ろうと参加者全員が真剣な眼差しで挑戦していました。昼食後には、パン食い競争もあり、お腹一杯のはずの利用者も必死にパンと格闘していました。

その後のフォークダンスでも他施設の利用者と共に輪になり楽しいひと時を過ごす事の出来た1日となりました。



「農業班宿泊研修in箱根熱海」

「ドキドキわくわくinすわっこランド」



10/2～3にかけて、会長の同行を頂き、農業班の研修旅行に参加させて頂きました。天候に恵まれ、箱根・熱海に行ってきました。箱根の関所跡と芦ノ湖では、歴史や自然を感じました。熱海では、雄大な海を目の前に、非日常を体験し、心が穏やかになりました。

何よりも一番嬉しかったことは、利用者の純粋な笑顔に、沢山触れることが出来たことです。施設の中では見られない、前向きな利用者の姿に接することが出来ました。

利用者の皆さんにとって、船に乗って湖を遊覧したり、ホテルのカラオケ大会で気の済むまで歌をうたったり、サファリパークで動物に触れたことは、かけがえのない人生の宝物となったと思います。私にとっては、それだけで十分満足な旅でした。



最後に、2日間の旅行が大成功に終わり、参加利用者の自立支援の一助になったと考えています。

生活支援員 佐野弘平

夏のおもいで。今年の7月「水泳クラブ」利用者5名、職員2名で長野県諏訪市にある『すわっこランド』へ行ってきました。



当日の朝、利用者は廊下を行ったり来たりとソワソワ、まるで遠足に出かける前の子どもの様に恵比寿様の様にニコニコでした。



すわっこランドは初めての場所だったこともあり、利用者も始めのうちは探り探りでしたが、プールで水に浮いたり、泳いだり、潜ったりして無邪気にはしゃぐ姿がとても印象的でした。

これからも利用者とドキドキわくわくした経験をしたいです。

生活支援員 石原光一



わ〜く穴山の里だより

多機能型事業所 わ〜く穴山の里
〒407-0263 韮崎市穴山町 4433-1
Tel : 0551-25-5866
E-mail : work@sip-shinwakai.jp



生産活動の空き時間などを利用し生活介護活動メンバーを中心に今年もプランターの花植えや畑で旬の野菜を育て収穫の喜びをみんなで味わいました。



◎白菜の植付けをしました



◎パンジー・ビオラの花を植えました



◎大きく育ったサツマイモ



また、利用者でつくる「ともだちの会」主催の外出行事も実施されメリハリのある楽しい活動を行っています。

◎桔梗屋工場見学

◎9/14 ぶどう狩り



穴山の杜だより

特別養護老人ホーム穴山の杜
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390
TEL0551-25-6100
E-mail : mori@sip-shinwakai.jp



竜巻の発生、ゲリラ豪雨、異常高温など気象条件の変化に伴う各種の災害が頻発した夏も終わり、杜の廻りのコスモスがきれいに咲き、秋の訪れを告げ穏やかな秋の陽に揺れています。

施設入居者の皆様も厳しい暑さの夏を乗り越え毎日を元気に過ごしております。敬老の日を迎え、お二人の入居者が内閣総理大臣より長寿のお祝いを受けました。“おめでとうございます”。

入居者の1割を超える方々が、白寿、100歳を超えて生活していることを大変うれしく思います。

25年度の上半期も終わり、上半期の成果と反省を総括し下期への活動に繋げるために上期のユニット目標、各委員会の成果報告会を開催します。毎日毎日の努力の成果について、自信を持って発表してもらいたいと思います。



トピックス秋編



9月8日 白寿のお祝い会



9月14日に99歳のお誕生日を迎えられる清水満寿よ様の、白寿のお祝いが行われました。

多くの人達に囲まれ、緊張されていた清水様も、一緒にカラオケをしたり、ひ孫様からプレゼントをもらい、「ありがとう！」と嬉しそうでした。ギネス更新を目指して、これからも元気に過ごして下さい。



お楽しみ会

7月に“千塚ながつき会”、8月には“ロザリオ・那波すずな先生”の皆様が、ボランティアにて訪問して下さいました。



ハーモニカの演奏をして下さいました。入居者の皆さんご存知の曲は口ずさみ、あまり聞く機会のないハーモニカの音色を聴き入っていらっしゃいました。



高校三年生や東京カイトリ-などのレガ-スを披露して下さいました。入居者も手拍子を造花を振って参加され、楽しまれていました。

うんどう会

9月25日に、全入居者参加の運動会が実施されました！

玉入れ・魚つり・おやつ食い競争が行われ、皆さん一所懸命取り組んで下さり、魚つりの腕前や、過去の職業が活かされているだろ-選手宣誓など、共に参加した職員も心が温まり、充実した1日になりました。



終了後には、みんなでおやつをいただきました！

福島の出張を終えて

～ 福島で過ごした17日間 ～

介護職員 岩波泰彦



8月12日から27日にかけて、福島県の南相馬市にある特別養護老人ホーム福寿園に、山梨県の応援職員として行って来ました。

福寿園は震災の被害を直接受けてはいませんが、福寿園から10キロほど離れた場所では津波の被害に遭い、ほとんど雑草しか見えない景色でした。

福寿園では、震災後に放射線の不安や実家を失い福島県から離れてしまう方など退職者が増えてしまい、ハローワークで求人を出しても施設職員への応募者が集まらず、猫の手も借りたいほどだと施設長は言っていました。又、前に勤めていた職場が流されてしまい介護経験がなく仮設住宅に暮らしながらも仕事をしているという方もいました。

24日には、震災を受けた隣町へ事務長さんに連れて行って頂きました。周りには瓦礫や壊れた家などばかりで現在もとても人が住めるような所ではありませんでした。テレビや新聞であらかじめ震災の様子は把握しているつもりでしたが、自分の足で被災地に立った時は鳥肌がたち、悲しい感情が込み上げてきました。

最終日には、介護主任さんとお話しをする時間を頂きました。「何か力になれたでしょうか。」と聞くと「福島まで来てくれたことが何より力になりました。ありがとうございました。」とお言葉を頂きました。

今回の出張を終えて、自分がこれから生きていく上でとても貴重な経験になりました。福島の人々から、命や幸せを奪った東日本大震災の悲劇は決して消えるものではありません。現在の被災地の様子はテレビや新聞で見る事が出来ますが、実際に福島県に行って震災の跡を見た人が伝えていかないといけないと思います。今、私達が当たり前の生活を送っている事は、とても幸せなことだと思います。これから少しでも福島の為になることがあれば支援していきたいです。

今回の出張に派遣して下さいました穴山の杜の方々。本当に感謝いたします。

海の近くで、津波に当たっても、なんとか持ち堪えた人家です。この付近はこの様な家が多く、無事だった家でも避難区域に入っている為、住む事が出来ないそうです。



海が近くにあり、当時津波で流されてしまった漁船が、放置されていました。

この家は津波の影響ではなく、地震で潰れてしまいました。



瓦礫を処分する為に、まとめである場所です。当時は、こんなにきれいにまとまっていなかったそうです。



長寿のお祝い

来年100歳を迎えられる入居者2名へ、内閣総理大臣・県知事より長寿祝いの表彰状と銀杯が授与されました。

ご家族と喜ばれたり、「嬉しいよ、もっと長生きしないと」と感激され、涙を流されていらっしゃいました。

これからも、笑顔で元気に過ごして下さい。おめでとうございます！

表彰されました！



感謝録

(平成25年6月16日から平成25年9月15日)

～ご寄付を頂きました～(敬称略)

ありがとうございました。感謝いたします。

岩下幸夫・岩田喜彦・伊藤正大・広江とし子・
曾雌由香理・富士工器・千野恵教・長田一人・
日向利子・中田孝一・山梨品川燃料・富士産業株・
古名屋ホテル・(株)マネジメント企画・Y S K e-com・
石橋電気保管理事務所・山梨中央銀行・いえプロ・
株コーエー・株セレオ

～ご協力を頂きました～(敬称略)

☆ボランティア

千野公洋(太鼓)・阿部光雄(歌謡)・加藤健二
韮崎高等学校(13名)・田中康子(絵画指導)
山本英樹・レクダンスロザリオ(岡田、宮川、
那波、名取、新藤)・南アルプス市社協

かぞへ歌 詩碑 建立

夏号でお伝え致しました詩人 権藤はなよさんの
詩碑が穴山町内に建立されました。

同時に信和会でも穴山の杜敷地内に「かぞへ歌」
の詩碑を建立致しました。

「一つとや ひとりで早起き 身を清め
日の出を拝んで 庭はいて 水まいて」

「三つとや 身支度きちんと 整へて
ことばを正しく はきはきと ていねいに」

現在、穴山町内に9箇所の碑があります。

これからの季節は紅葉と共に歌を口ずさみながら
穴山町を訪れて頂き、秋の散策を楽しんで頂ければ
と思います。



訪問録

(平成25年6月16日から平成25年9月15日)

☆教育実習(敬称略)

- ◎聖徳幼児専門学校
吉田麻里菜・飯塚彩花
- ◎聖徳大学
藤田紫穂・鈴木萌香・小石川詩織・小野村 泉
- ◎山梨学院短期大学
内川みづき・清水あゆ・久保寺麻衣・古屋美穂
中村龍生・橋本一輝・山寺結菜・渡邊咲季
- ◎帝京学園短期大学
久保田健也・芹沢美織・佐藤理絵
- ◎鶴川女子短期大学
呉屋愛美・黒澤 歩
- ◎優和福祉専門学校
矢崎明彦・滝嶋 歩・雨宮咲早稀・長田千登勢・
伊藤吉人・芦沢佳子・藤森清美・雨宮千恵・
川久保彰子
- ◎甲斐清和高校福祉クラス
植松里沙・西川咲希

☆職場体験(敬称略)

- ◎ふたば支援学校高等部
平田和輝
- ◎わかば支援学校 体験実習
安藤このみ・穂阪和紀・山田翔也
- ◎袖ヶ浦のびろ学園 東社協職員体験研修
鳥飼 知之
- ◎韮崎東中学校
本田彩歌・小田切俊希・高見澤千咲・今福菜月
- ◎福祉人材センター
谷 由美・伊東美江子・新井文絵・田中ひとみ
- ◎北杜高校
小田裕二・竹村幸奈
- ◎県立大学 県社協介護等体験
大木敏矢

☆実技指導(敬称略)

- ◎山梨県フライングディスク協会
伊藤太一 他1名(指導員)

編集後記

暑かった夏の記憶も薄れ、秋の気配が
深まってきました。秋と言えばスポーツ
の秋、食欲の秋というように、肩書のつ
きやすい季節ですね。皆さんは何の秋で
すか? 私は「栗ごはんの秋」です。秋に
なると無性に食べたくなります。